

6月度理事会議事録（2021年6月8日（火）開催）

（新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大のため、6月度理事会は、ビデオ会議システムにて開催した。）

1. 会長報告（5月11日（火）～6月7日（月）出席案件）

- ・5月16日（日）内堀師出家式 於：ワット・リアップ／泰国日本人納骨堂
- ・5月24日（月）SNS講習会 於：日本人会本館

2. 理事退任・新理事承認

- ・猪股正樹氏（NTT (Thailand) Limited）・帰国のため退任
- ・小田原靖氏（Personnel Consultant Manpower (Thailand) Co.,Ltd.）を理事として会長より推薦
——）異議なく承認された。

3. 退任オブザーバー挨拶

- ・吉岡憲彦氏（国際交流基金・The Japan Foundation, Bangkok）より帰任の挨拶を頂いた。

3. 一般報告

（1）5月度個人会員動向

入会者 103名 退会 131名 現会員数 5,425名（内、準会員 58名 会友会員 214名）
（前年同月 6,032名・前年同月比 89.9%）

（2）5月度賛助会員

〈退会 11社〉

- ・Taisin Industrial Co.,Ltd.
- ・Holiday Inn Bangkok Sukhumvit
- ・Banyan Tree Bangkok
- ・Hamaoka Co.,Ltd.
- ・GMCC And Welling Appliance Component (Thailand) Co.,Ltd.
- ・Atlas Trading & Property (Thailand) Co.,Ltd. (CLUB THAILAND)
- ・Ryujin Tours Co.,Ltd.
- ・World Electric (Thailand) Ltd.
- ・Knit Aoki Bangkok Co.,Ltd.
- ・Thai Tsukiji Corporation Ltd.
- ・Kikusui Restaurant

現会員数 544社

（前年同月 586社・前年同月比 92.8%）

（3）会員優待店

【退会店舗】

- ・生そば・あずま（3店舗）
- ・新規加盟 0店舗、退会 3店舗 現在 202店舗
- ・休業されているレストランも多いことから事務局にて精査しているところである。

（4）5月度会館来訪者数

本館：33名（実数 22名）

別館：153名（実数 81名）

合計：186名（実数 103名）

（前年同月 116名（実数 79名）前年同月比 160.3%（130.3%））

・4月25日(日)に発令されたバンコク都告示第25号により、4月26日(月)から会館の利用・図書館の利用を休止している。同告示は、部分的な緩和もあるが、引き続き貸し会議室の利用、図書館の利用が制限されており、バンコク都告示第31号により、さらに6月14日(月)まで延長されている。これを受け法人の開館利用も6月まで予約がキャンセルとなっている。

・部会や同好会用にオンラインビデオ会議システム(ZOOM)のアカウントを追加購入した旨、先月の理事会で発表したが、非常に好評で皆様方よく利用頂いている。

・状況を注視し、図書館の再開など安全対策をした上で緩和していきたいと考えている。

【昨年の開館状況】

・2020年3月24日(火)より全ての会合、図書館利用、部会同好会活動などの会議室利用を中止。3月28日(土)～4月30日(木)まで、日本人会食堂「The Japan」の完全休業。3月31日(火)より、夜間外出禁止令発令のため事務局の時短運営(9時～15時・土曜日休館)。4月16日(木)～5月6日(水)まで、別館を閉鎖、5月7日(木)より別館再開。

(5) 5月度会計報告

・5月度収入は、234万バーツ、(前年同月 155万バーツ 前年同月比150.3%)

・5月度支出は、205万バーツ、(前年同月 152万バーツ 前年同月比134.5%)

・単月収支は、28万バーツ(前年同月 2万バーツ 差額 25万バーツ)

・累計収支は、130万バーツ(前年同月 1万バーツ 差額 128万バーツ)

(6) 寄付・寄贈報告

・現金の寄贈

長原敬峰師(高野山真言宗タイ国開教留学僧の会・会長)より、内堀師の出家式の食事供養に使って頂きたいということで、10万円(28,350バーツ)ご寄付頂いた。出家式の食事供養は通常3万バーツ程度支払いをしているが、今回の出家式は少人数で開催したため、10,500バーツを利用させて頂いた。残額については、時期をみてワット・リアップの住職を招き食事供養をする際の費用に充てる予定でいる。

・本の寄贈

野村祥美様他、3名より301冊寄贈頂いた。

(7) その他報告(事務局)

・6月の主な会議日程と各同好会・部会など主な行事日程を確認した。

・6月17日(木)バムルンロード病院の医師・百武加恵氏を迎えてのオンラインセミナー「タイで、いつ打てる?コロナワクチン最新情報」を開催予定である。今朝の時点で約780名の参加希望を頂いている。これまでのオンラインセミナーで最大規模になる見込みであり、今回は初めてウェビナー形式で配信予定である。

4. タイ国日本人会後援名義・ロゴ使用申請(事務局)

(1) 対象事業名:タイにおける母語・継承語としての日本語研究会

・開催日:2021年8月22日(土)または、29日(土)

・主催:タイにおける母語・継承語としての日本語研究会

・要請事項:日本人会後援名義・ロゴ使用・会員への告知・会館の無料利用
——>異議なく、承認された。

(2) 対象事業名:White Canvas Thailand 2021

・開催日:2021年6月1日(火)～2022年3月31日(木)

- ・主催：Palette Artspace
 - ・要請事項：日本人会後援名義・ロゴ使用・会員への告知
- > 異議なく、承認された。

- (3) 対象事業名：タイで日本語を学ぶタイ人高校生と日本人家庭とのオンライン交流
- ・開催日：2021年10月～2022年3月
 - ・主催：タイ国内ホームステイプログラム・ルアムジャイ
 - ・要請事項：日本人会後援名義・ロゴ使用・会員への告知
- > 異議なく、承認された。

4. 会友会員 会報の有料化について

- ・先の定期総会で、会友会員の年齢条件の見直しが承認され、85歳以上で15年間会員であった方に条件の引上げが承認された。(75歳以上・5年以上会員から)
- ・この基準見直しについては、昨年以来検討をしていたが、2020年12月の理事会で、取り急ぎ2021年度から会友会員になる方には、日本人会からのニュースレター(お知らせ)について、希望者には実費を頂くことが承認された。(月額100バーツ・年額1,200バーツ)
- ・当時の議論では、会友会員の年齢引き上げは緩やかにという意見もあったが、結果としては2023年から会友会員の年齢引き上げをすることとなった。
- ・その結果、会報を希望者には有料することは、2021年・2022年に75歳を迎える方のみ対象となり制度としては、中途半端なものとなり、さらに、この2年の方のみに負担をお願いすることは不公平だというご意見もあった。
- ・5月の三役会でも話し合った結果、現会友会員の方に聞き取りを行い、2022年4月以降は、希望者のみ有料で配布するというにしたいという意見となった。実際の手続きとしては、対象の方に個別に手紙を送り、聞き取りをし、回答のなかった方には会報は郵送しないこととしたいと考えている。

(石井理事)

- ・無料の会員が増えることを抑制するということで、会友会員の基準の見直しを行った。おそらく会報一回あたりのコストは、20～30バーツ程度だと思うので、費用を圧縮したいというのであれば、郵送物が不要か必要かを個別に確認することは、よしとしても有料化するというのは総会の時にこれ以上、無料の会員が多くなるのを抑制しようという主旨と異なるのではないか。費用を明確にした上で議論するのがよいのではないか。

(加藤理事)

- ・費用がいくらかかるかという議論も必要であるし、受益者負担の考え方もある。

(日時本理事)

- ・会報(ニュースレター)送付については、広告収入があるので黒字ではあるが、日本人会の財政を守るために、受益者負担にするということであっているか。

(石井理事)

- ・郵送する世帯が減ることは、広告としての魅力が減ることになり、広告収入の減少につながる可能性もあるのではないか。具体的な数字もお願いしたい。

(事務局)

- ・会報(ニュースレター)送付については、広告料で賄っており、黒字となっている部分ではあるが、会費値上げができない中で、受益者負担の考え方で、会館利用料の値上げや、会友会員の年齢引き上げも実行してきた。今回の会報の実費負担についてもその考え方の延長にあるものである。

(加藤理事)

- ・今回の理事会での承認採決はせず、具体的な数字を事務局から提示して、来月の審議とすることにした。

5. チャリティーバザーの開催について（事務局代理）

・9月下旬から10月上旬に従来のやり方でのチャリティーバザーを開催するとしたら、今月中には方針を決定して開催に向けて準備する必要がある。

・一方で現在、バンコク都では、貸し会議室・ホテル宴会場の利用規制があること、また、ソーシャルディスタンスに配慮すると、大規模な会場での開催は難しいと判断している。

・本年度、どのような形で、バザーなり、寄付の募集をしていくかにあたり、三つの案を検討した。

1) バザー中止・現金寄付も募集しない。（昨年度と同形式）

2) 現金寄付を募集する。（小規模なチャリティーイベントを実施）

3) 一旦延期し、年度内の開催を目標に、10月に再度再検討する。

・企画推進・三役会・バザー委員長と話しあった結果、2)の現金の寄付を募集し、小規模なチャリティーイベントを開催することとした。

・チャリティーイベントについては、現在7月14日（水）に第一弾を開催するよう準備している。目的としては、タイ社会へ貢献する団体の活動を広く知ってもらい支援の輪を広げる、また、ボランティアとして参加できる活動も併せて紹介するというものである。

・このイベントの告知と同時に、現金寄付を募集し、日本人会のチャリティーバザー・チャリティー基金を忘れられないように、認知度を高める活動にしたいと考えている。毎年、予算を取ってご協力頂いている企業、また個人でも、どこかに寄付して頂きたいというご厚意をお持ちの方も多くいらっしゃる伺っている。

・チャリティーイベントの第二弾としては、2019年度のバザーでも実施した「買って応援コーナー（*注釈）」に出展頂いた団体にお声がけして、別館での小規模な販売会ができないか検討中である。

（*注釈：団体が制作しているものを販売して頂き、直接団体への支援となる販売ブース）

・昨年度は、バザー中止・各企業の状況も考えて、寄付金も募集しないこととしたが、チャリティー基金の繰越金を使い、最終的には91万バーツを各施設に支援した。支援については、人的な活動に限って支援したために、設備の修理や備品の新規購入といった要請には叶うことができなかった。ある程度の寄付額があつまれば、こういった設備の修繕や備品の新規購入といった支援も応えていきたいと考えている。尚、現在のチャリティー基金の繰越残高は、1,560万バーツである。

6. 外務省向け申請企画書・今後の予算について（事務局）

・①「コロナ禍における心身を鍛えるオンラインシリーズ」・②「コロナ禍におけるバーチャルランイベント」を申請することとしている。裨益者は、①で1,200人、②で、1,000人を目指している。各団体2件まで申請が可能で、2件申請する場合は、裨益者の多い事業に合わせた上限金額が補助金額となることから、1,000万円（想定裨益人数1,001人から2,000人）を上限に想定して申請している。

・6月17日（木）に予定している「タイでいつ打てる？コロナワクチン最新情報」は申請から承認まで1~2ヵ月かかるということから、申請対象とはしなかった。

・理事会メンバーの方々にもオンラインセミナーを行って欲しい著名人ということでアンケートを実施させて頂いたが、重松理事からご紹介頂いた長谷川秀樹氏（国立感染症研究所インフルエンザ研究センター長）のオンラインセミナーを、7月31日（土）に実施することとなった。

・尚、現在、①では、1,595,000バーツ、②では1,202,820バーツ 合計で2,797,820バーツ(9,792,370円)の補助金を申請中である。

・現在、窓口となっている海外在留邦人ヘルプデスクと、時間的に対象とならない事業の見直しや見積書の再提出など調整中である。

・裨益人数の算出方法について、海外在留邦人ヘルプデスクに問い合わせしたところ、LINE登録者は、対象外であるが、オンラインセミナーをYouTubeで公開した場合の閲覧数は対象となることであった。また、オンラインセミナーの参加人数が想定を下回ったとしても、ヘルプデスクからは次のような回答を頂いている。

【ヘルプデスクからの回答】「オンラインセミナーというものの性質上、予定の講師に委託し、決まった日時に在留邦人向けに情報を提供するという事業なので、仮にセミナー参加者数が予定通りでなくとも、事業計画どおりに適切に事業が実施され、見積書のと通りの支払が行われ、報告書類（領収書添付）が提出されれば、精査の上、事後的に精算される。Webセミナー、ホットライン事業のようなケースではそのための必要な体制を整えているわけで、減額は考えにくいと思う。ただし、見積書に記載のなかった経費等が含まれていた場合、その分が減額されることはあり得る。」

・このような回答を裨益人数については、ヘルプデスクから頂いたもので、日本人会としては、オンラインセミナーについては、当初想定している人数で申請している。

・現在、松前領事部長をはじめ各方面に協力を頂いており感謝申し上げる。

7. 各部・各委員会報告及び提案等（発表順）

（1）クラブ部（土田理事）

・4月26日（月）以降、バンコク都の告示により会議室・図書館の利用ができない状態が続いており、別館オーナー側と家賃交渉をした結果、6月分賃料は30%減額となった。引き続き会館が利用できない状態が続いているため、引き続き交渉していきたい。

（2）婦人部（竹井理事）

・5月25日（火）バムルンロード病院、コーディネーション医・田中昌代氏を講師に「女性のライフステージに合わせた様々の症状との付き合い方」をオンラインにて開催した。参加者数は72名であった。

・6月22日（火）ウェルカム・オンライン交流会を実施予定である。事前申し込み頂いた方先着順に協賛会社から提供頂いた記念品を進呈することとなっている。

（3）厚生部（桐生理）

・出産準備教室、すくすく会では、5月、計7回のオンラインイベントを開催した。特に5月15日（土）に開催した「プレママクラス」には、未入会の方、6名に参加頂きよい交流の場となったとの感想を頂いている。

（4）青少年部（日高（日高洋行）理事）

・5月、剣道サークルは毎朝オンライン朝稽古を実施している。演劇サークルは、8月の公演に向けてオンラインで台本の読み合わせ稽古を実施した。

・6月は、剣道・演劇サークルはオンラインにて活動予定。その他サークルについては、学校再開まで活動予定なしとなっている。

（5）事業部（事務局代理）

・5月16日（日）内堀新堂守の出家式をワット・リアップにて開催した。感染防止対策のため一般には、告知せず、会長・担当理事・名誉会員の少人数で実施した。儀式についても通常とは違い、感染予防に配慮した進行であった。

・小川堂守は5月28日（金）関西空港行の便で帰国した。

・6月22日（火）に例年開催しているワット・リアップ育英基金伝達式は昨年に引き続き中止となった。このため、チャリティー基金から支出予定だった50,000パーツについても寄付贈呈はしないこととなった。

・新堂守・内堀師の活動報告を今月より発表することとした。タイ比丘としての主な行事への参加3回、納骨堂堂守として供養を7回実施して頂いている。内堀師より、「皆様のおかげで得度（出家）を受けることができた。タイ比丘になって懂れていたパーリー経典の世界をまさしく体感でき日々充実している」との報告も頂いている。

(6) 広報部 (富永理事)

- ・5月の各情報誌の日本人会広告を紹介した。
- ・5月のホームページアクセス状況は、訪問数16,934 閲覧数34,512 前年同月比、訪問数256.5%、閲覧数185.4%。前月比は、訪問数155.3%、閲覧数115.8%。タイからの訪問数は76.1%、日本からは19.8%。「在タイ邦人向けワクチン情報」が閲覧上位にきている。
- ・5月度LINEは13回配信、登録者数は、先月より140名増加し、5,016名(有効数3,336名)となっている。
- ・5月度Facebookは、53回配信、フォロワー数は、先月より138名増加し、2,358名となっている。
- ・5月度Instagramは、15回投稿、登録者数は、先月より22名増加し、1,016名となった。
- ・HUB 沖縄(沖縄のインターネットニュースサイト)にて、世界で活躍する沖縄県出身の方取材する企画「新世代、世界のウチナーンチュ」にて、嘉手苺職員を掲載頂いた。日本人会での仕事ぶりも紹介頂いた。
- ・5月24日(月)日本人会・サートン本館にて、博報堂グループでデジタル媒体を専門に扱っているi-dac (Bangkok) Co., Ltd の日本人社員の方2名を講師に迎え、職員向けにSNSセミナーを開催頂いた。

(7) 企画推進部 (富永理事)

- ・2021年度は、全20セミナーを開催予定である。
- ・7月8日(木)新任駐在員向けオンラインセミナー「タイの異文化と国民性の理解」講師・山下雅史氏にて、開催予定である。

(8) 食堂運営委員会 (事務局代理)

- ・食堂売上5月は、214,490バーツであった。タイ人顧客は572名、邦人顧客は190名、総顧客数762名、会員利用者延べ人数は37名、実数12名であった。
- ・5月1日(土)～15日(土)までバンコク都の通達により、持ち帰り営業のみ許可されていた時期は休業とした。
- (昨年の状況:2020年3月28日(土)～4月30日(木)まで、新型コロナウイルス感染拡大のため政府の通達を受け休業)

(9) 大使館代表 (松前領事部長)

- ・6月7日(月)「タイにおける新型コロナウイルス・ワクチン接種に関する追加情報」を大使館ホームページに掲載した。現在タイ国内でワクチン接種ができるのは、60歳以上の方と基礎疾患のある方となっている。今後外国人を含めタイ国内にいるすべての人がワクチン接種の対象となる。さらに、保健省疾病管理局は、外国人向けのワクチン接種ウェブサイト開設を発表している。
- ・5月28日(金)から6月6日(日)まで、「海外在留邦人の一時帰国時のワクチン接種に係る意向調査」を実施した。現在集計中であるが、7月以降予約開始、8月以降接種開始の予定で進んでいる。日本に住民登録のない人を対象としており、ワクチンの種類は選択できないこととなっている。
- ・2020年10月1日現在(令和2年)の海外在留邦人数調査統計が発表された。国別でタイは前年比2.6%増加の81,187人であった。また都市別でバンコクは前年比2.3%増加の58,783人であった。統計の内容については現在、分析中であるが外務省より情報提供があれば共有していきたい。

(10) バンコク日本人学校 (谷口校長)

- ・5月19日(水)の教育省の発令に基づき、6月14日(月)からの授業再開に向けて準備をしていたが、現在、バンコクがダーク・レッド・ゾーンに指定されており、指定されている間は、学校での授業の許可がおりず、引き続きオンラインでの授業となっている。

(10) 事務局報告

・ビジター制度導入に関する聞き取り調査結果

1回200パーツで、未入会の方にも会館を利用できる「ビジター制度」の導入が決定したこと受け、各同好会へビジター部員を導入する意向があるかどうか聞き取り調査をした。

30の同好会のうち、会館で活動しているのは20団体だが、そのうち13団体から回答あり、10団体はビジター制度を利用した活動参加を認めたいという回答だったのに対し、3団体は会員以外の参加は不可という回答となった。

・6月の会議日程を確認した。

8. 5月度理事会議事録承認

——〉異議なく承認された。

9. 理事会出席者（敬称略、順不同）

・島田会長、荻原、日時本、田中、加藤（三井）各副会長、加藤（トヨタ）、堀尾、日高（丸紅）、猪股、小田原、吉田、桐生、岩本、土田、竹井、日高（日高洋行）、富永、重松、金子、石井各理事、朽木監事、松前大使館代表、谷口日本人学校校長、森田 JICA（国際協力機構）所長、吉岡 The Japan Foundation（国際交流基金）代表、石川 JETRO（日本貿易振興機構）代表、西岡タイ情報誌制作代表、事務局（熊本・村上・松田）